

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



5月の銅の概況及び6月の見通し (3)

■国内概況まとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、4月の自動車生産台数は前年比+4.2%の63万5,619台。輸出は、前年同月比-2.8%の33万5,600台。

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、5月の自動車販売台数（軽除く）は、前年比+0.9%の20万3,523台。

◆住宅着工戸数

4月の新設住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比26.6%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では、前月比42.0%の減少となった。

○新設住宅着工戸数は、56,188戸

前年同月比26.6%減、3か月ぶりの減少

○新設住宅着工床面積は、4,177千㎡

前年同月比 27.6%減、3か月ぶりの減少

○季節調整済年率換算値では、626千戸

前月比42.0%減、3か月ぶりの減少

◆伸銅品生産

2025年4月の伸銅品生産動向（速報値）によれば、当月の総生産量は、56,460トン（前年同月比+4.0%）となり、2か月連続の増加を記録。

自動車関連の国内需要は、認証不正問題の反動で回復傾向にあり、北米向けも堅調だが、トランプ関税の影響による駆け込み需要の可能性があり、今後の推移には注意が必要。

電子・半導体分野では、AI・半導体関連製品向けリードフレームの需要が増加。スマートフォン、パソコン（OS更新に伴う）、ゲーム機向けの需要も高水準を維持。

銅条は、半導体・PC・ゲーム向けが堅調だが全体の回復には至らず。黄銅棒は、ガス機器・データセンター向けが底支えした。

◆電線

出荷量は、47,400トン（銅量ベース）で、前年同月比8.7%減。出荷数量は減少傾向にあるが、単価の上昇により出荷金額は堅調。

自動車向けのみが明確な回復基調にあり、他の用途は引き続き低調。

銅価格の高止まりが、今後の動向に大きく影響を与える可能性がある。

◆輸出

電気銅 +1.1% 5万9,241 t

スクラップ -8.1% 3万2,294 t

◆輸入

電気銅 +458.8% 1,464 t

スクラップ +30.4% 2万5,225 t

■見通し

◆自動車生産

4月の自動車生産が+4.2%。5月の自動車国内販売台数が前年比+0.9%。販売、生産共に増加。国内の生産回復と北米需要が堅調だったことが業界の回復を牽引。

伸銅品生産では、総生産が5万6,460トンで前年比+4.0%。2か月ぶりにプラスに転換。AI、PC、ゲーム関連需要が堅調で、車載リードフレーム用の注文も回復傾向。ただし、欧州・アジア向けが停滞しており、総需要の押し上げには至らず。

電線の出荷量は4万7,400トンで前年比-8.7%。減少は5か月連続で、建設・電販部門の低迷が主因。出荷金額は単価上昇により堅調だが、数量面では弱含み。

■スクラップ景況予想

銅建値が142万から144万へ。一時は147万まで上昇。ただし、供給が需要を上回っており、在庫増の兆候がある。市中のスクラップ流動性は、悪化傾向。一部業者は価格下落を警戒。買い渋り、売り渋りが共に進行している。

■LME予想

●供給面（南米中心）

チリ・ペルーの鉱山にて労働争議や水不足が継続。

●需要面（中国中心）

5兆元規模の景気刺激策（2025年5月発表）により、インフラ用銅需要が6月に本格化する可能性。国家備蓄局（SRB）の買い増し観測もあり、強い現物需要が相場を支える。

これらを踏まえた今月の銅価格は、9,400ドル〜1万200ドル（セツル）と予想。

■為替予想

141円〜148円と予想。短期的には円安圧力が強まる可能性がある。中長期的にはドル安・円高方向への動きも想定できる。

銅建値に関しては136万〜155万円程度と予測。

（「5月の銅の概況及び6月の見通し」おわり）